

リーディング
スキルテストで

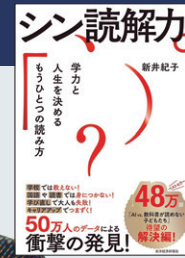
シン読解力を測る

◆「シン読解力」とは

教科書や辞書、新聞などで使われる「知識や情報を伝達する目的で書かれた自己完結的な文書」を読み解く力のことです。

◆リーディングスキルテスト(RST)とは

シン読解力を測定・診断するテストです。6つの分野ごとに読解の能力値を測定し、学習アドバイスを提供します。これまでに、小学校・中学校・高校あわせて1,300校・37万人以上が受検しています。



『シン読解力：学力と人生を決めるもうひとつの読み方』
(新井紀子(著), 東洋経済新報社)

シン読解力と学力

埼玉県の実験調査と「RST6分野の平均能力値」の相関を調査したところ、相関係数0.6から0.8の強い正の相関があることが分かり、シン読解力が学力を向上させるための鍵であることが示唆されました。また、高校では、大学進学実績とシン読解力の間に相関係数0.9の強い正の相関があることも明らかになっています。



シン読解力について▶

戸田市におけるRST6分野の
平均能力値と県学力調査の相関係数

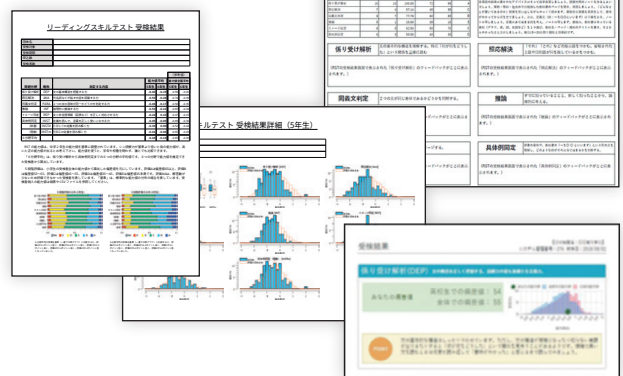
	小6 (1186人)	中1 (1129人)	中2 (1004人)	中3 (1016人)
英語			0.673	0.662
国語	0.788	0.741	0.792	0.779
数学	0.729	0.656	0.745	0.717
全教科 総合点	0.804	0.745	0.798	0.779

(注) 小6と中1は英語のテストは実施されていない

(新井紀子『シン読解力：学力と人生を決めるもうひとつの読み方』p.113より抜粋)

受検方法とフィードバック

受検場所	受検する学校の教室
受検時間	約50分(小学生は約45分)
受検方法	CBT (Computer-based Testing: コンピュータ使用型調査) アプリのインストールは不要 タブレット端末等のブラウザで受検できます
受検料	一人1,650円(税抜)
受検後の フィードバック	受検者: 受検直後に画面上に表示 (右下) 受検団体: 1. 受検団体に対する評価 (PDF形式) (中央・左上) 2. 受検者の分析結果 (CSV形式) (中央・左下) 3. 受検者の個票 (PDF形式) (右上)



1 6分野を診断

RSTは、6つの分野から構成されます。これにより、受検者が、どの分野が得意で、どの分野が苦手なのかを診断できます。

問題分野	測定する内容
係り受け解析	文の基本構造を把握する力
照応解決	代名詞などが指す内容を認識する力
同義文判定	2つの文の意味が同一かどうかを判定する力
推論	論理的に推論する力
イメージ同定	文と非言語情報(図表など)を正しく対応させる力
具体例同定	定義を読んで、言葉を正しく使いこなせる力

例題) 係り受け解析

以下の文を読みなさい。

仏教は東南アジア、東アジアに、キリスト教はヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニアに、イスラム教は北アフリカ、西アジア、中央アジア、東南アジアにおもに広がっている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

オセアニアに広がっているのは()である。

- ☐ ヒンドゥー教
 ☐ キリスト教
☐ イスラム教
 ☐ 仏教

確々といき：端五

2 項目反応理論

項目反応理論(Item Response Theory: IRT)によって開発されているため、受検終了後に、その場で読解力の診断結果を受け取ることができます。また、能力値を使うことで、一人の児童生徒の成長を1つの尺度で追うことが可能です。さらに、異なる年度・学年、学校種別を越えた比較もできます。

3 適応型テスト

コンピュータ適応型テスト(Computerized Adaptive Testing: CAT)として実施されます。適応型テストとは、受検者の能力に応じて、適切な難易度の問題が出題されるテストです。そのため、短い時間で読解力の精緻な診断が可能となっています。

◆シン読解力は伸びる

福島県の相馬市立桜丘小学校では、2021年は全国平均より低い状態でしたが、翌2022年は全国平均並みになり、2023年は全国を大きく上回る結果となりました。桜丘小学校だけでなく、相馬市全体でも全国平均を上回る成果が得られていることから、シン読解力は先天的な能力ではなく、伸ばすことが出来る能力であるといえます。

桜丘小学校の全国学力・学習状況調査の正答率(%)

国語	桜丘小	全国(公立)	算数	桜丘小	全国(公立)
2021年	57	64.7	2021年	61	70.2
2022年	66	65.6	2022年	65	63.2
2023年	70	67.2	2023年	66	62.5

(新井紀子『シン読解力：学力と人生を決めるもうひとつの読み方』p.214より抜粋)



『新井紀子の読解力トレーニング』(新井紀子(著), 東京書籍)ではシン読解力育成に取り組んだ教育委員会・学校の実践のうち、効果のあったトレーニングや授業の方法を、12回の授業という形式でご紹介しています。リーディングスキルテストの学習アドバイスにも対応しています。各トレーニングがなぜ必要なのか、どの程度すればよいかについても、対話形式でわかりやすくお伝えしています。



導入・活用事例

RSTをもとに授業改善に取り組まれている、相馬市教育委員会の福地憲司教育長と会津美里町立高田小学校の井上雄騎教諭に、読解力向上に向けた日々の取り組みについてインタビューしました。全文は当研究所ウェブサイトをご覧ください。

(所属・肩書は2025年3月時点のものです)

相馬市教育委員会 福地 憲司教育長

——どうして相馬市は読解力の育成に「オールイン(分散せずに一つの施策にかける)」したのでしょうか？

一つに絞り込まないと成果が分散してしまいます。何に絞り込むのが適切なのかと考えた時に、読解力こそが学びの基礎になると考えました。

——取り組みを進める中で、どのような成果がありましたか？

簡単に言えば、子どもたちが教科書を丁寧に読むようになりました。さらに、先生方の意識が変わったことも大きかったです。読解力を上げることで人生が豊かになるという私の考えを共有し、先生方もそれを子どもたちに伝えてくれています。

——読む指導に力を入れた結果、書く力が身につかないということはありませんか？

読んでインプットができなければアウトプットできません。読解力が向上したことで、全国学力・学習状況調査の記述問題の白紙回答がかなり少なくなる効果も表れ、調査の結果も伸びてきました。絞り込んで取り組んできた結果、RSTが相馬市の教育文化として根付いてきたことを実感しています。

インタビュー記事全文はこちら▶



会津美里町立高田小学校 井上 雄騎教諭

——井上学級の授業(6年生社会科)を参観して、ほとんどの児童が手を挙げ、根拠をもって発言し、しかも単語ではなく文章で発言できることに驚きました。

今日の授業では、「そう、そこが大事!」ということが自然と出てきました。例えば、「主な」や「など」の使い方について、よく読んでいるな、とこちらが感心させられる部分もありました。言葉にこだわって正確に読むことを意識している子どもたちは、もう自走できるようになっていると思います。

——授業のまとめでは、子どもたちに、今日の学習の内容が腹落ちしている様子が見られました。

授業をまとめるにあたって、「主語は何ですか?」「言葉をください」と問いかけるようにしています。話の中心は日本という教科書の全体像を理解しているからこそ、「世界が」ではなく、「日本が」とか「日本は」といった意見が出て、最終的に「世界の課題を解決するために、日本はどのようにかかわっているのだろう」という文が子どもたちから自然に出てきました。何となくまとめるのではなく、何を主語に文章を作り上げるのかについては、他の教科でも意識して行うようにしています。

——子どもたちの状態をそこまで持つていくのは難しいのではないのでしょうか。どんなことを心がけていますか？

週に3日ほど、「RSノート初級編」を朝の帯時間にやっています。指導者用デジタル教科書で、定義文を電子黒板に映し出すことが簡単にできます。「今日は算数の何ページをやしましょう。」「この文(定義文)を探せますか?」と言って、投影した定義文を教科書から探させ、全員で指差し確認してから、音読をして視写する。新井紀子先生の『シン読解力』(東洋経済新報社)に載っている「RSノート初級編」のやり方をそのまま取り入れています。

「鉛筆を正しく持つ、字は早く丁寧に細く」も合言葉にしています。ゆっくり書いたら日が暮れちゃうよ、習字はゆっくりでいいけど、時間が限られているときは、隣の人が読めるくらいでいいという約束でやってきました。加えて、教科書の文章の助詞を埋める「助詞穴埋めトレーニング」も週一回行っています。

インタビュー記事全文はこちら▶



井上先生の実践は、2025年8月1日の読売新聞1面トップでも取り上げられました!

学校ウェブサイトをも まだホームページ作成アプリで作っていませんか？

情報担当の先生が異動してから、更新が止まっていませんか？
学校ウェブサイト公開用のサーバの維持に費用がかかっていませんか？

ぜひ

edumap

今すぐ
申し込み

の導入をご検討ください！

申し込みから学校ウェブサイト構築までにかかる時間は平均 **1 営業日**です



edumapとは

edumapは、1,100校以上が導入している原則無償の学校ウェブサイトです。

一般社団法人教育のための科学研究所が、株式会社NTTデータとさくらインターネット株式会社の協力を得て、非営利活動として学校や幼稚園、保育園等に提供しています。

edumap は学校ウェブサイト専用の SaaS です。国立情報学研究所が OSS として提供してきた学校向け CMS「NetCommons」の後継として、一般社団法人教育のための科学研究所が開発した NC4 上で動作しています。

導入校の声

第2回
edumap学校
ウェブサイト
大賞受賞



◀動画はこちら



スマホで見やすい

保護者から、スマホで見やすいとの言葉を多くいただきました。全職員が気軽にホームページの更新ができるので、更新の頻度も高まりました。

シガコ双葉会日本語学校全日校
杉谷久彌 教諭 (当時)

第3回
edumap学校
ウェブサイト
大賞受賞



◀動画はこちら



毎日更新するのが 当たり前

毎日欠かさずにホームページを更新しています。ホームページ閲覧者が学校に応援メッセージを送れるようにしています。

七ヶ浜町立七ヶ浜中学校
三浦 敏 校長 (当時)



お申込みはこちらから
<https://edumap.jp>



edumapには、
次のようなサービスが
無償でついています。

- ① 学校ウェブサイト更新状況、アクセス状況などを把握する機能
- ② 暗号化された通信 (https) やサイト内データを暗号化する機能
- ③ 自動監視と人による監視の連携による外部から攻撃防止や緊急停止
- ④ 教育委員会単位で導入した際は、傘下の学校ウェブサイトの更新状況やアクセス状況などを把握したり、CSVでダウンロードしたりする機能

※ 広告を表示する場合は無償、広告を外す場合は年間18000円/年 (税抜) かかります。